

令和元年度第1四半期 線区別の収支とご利用状況について

令和元年9月4日



北海道旅客鉄道株式会社
HOKKAIDO RAILWAY COMPANY

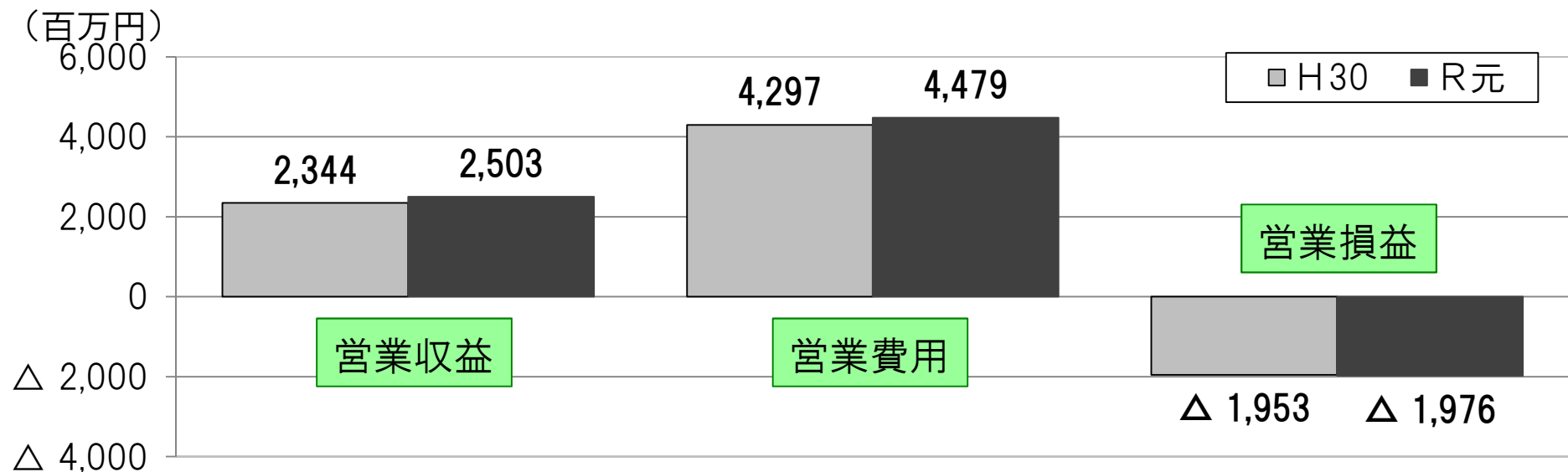
1 令和元年度第1四半期のポイント ①

- 北海道新幹線の開業3周年キャンペーンを実施したことや、ゴールデンウィーク10連休効果が重なったことで、道南方面や札幌圏のご利用が増えたことにより、営業収益が増加しました。
- アクションプランの取り組みが始まり、[10] 日高線（苫小牧～鷗川）では、沿線の高校の通学手段をバスから鉄道へと切り替えていただき、ご利用が増加したことから、営業収益が増加しました。[9] 釧網線（東釧路～網走）や[6] 根室線（釧路～根室）でもご利用が増加したことから、営業収益が増加しました。
- 多くの線区で冬期の少雪等により、修繕工事に例年より早く着手・完成できたことから修繕費が増加し、営業費用が増加しました。

1 令和元年度第1四半期のポイント ②

○ [21] 新幹線（新青森～新函館北斗）の営業損益は前年度並み

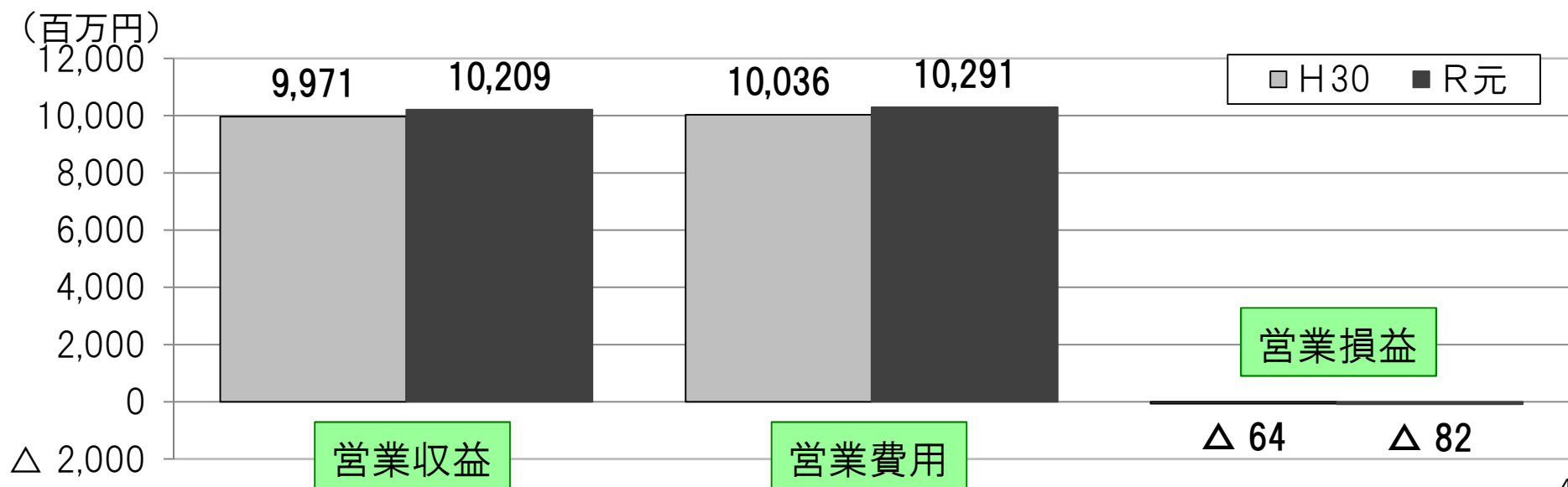
- ▶ 営業収益は、開業3周年キャンペーンを実施した効果やゴールデンウィークが10連休となった影響で運輸収入が増加したこと等により、158百万円増加。
- ▶ 営業費用は、今年度から列車を運休させて作業時間を拡大した日を設定し、在来線との共用走行区間においてレールや電車線の交換を実施したこと等により、181百万円増加。
- ▶ 以上により、営業損失は23百万円拡大。



1 令和元年度第1四半期のポイント ③

○ [18] 札幌圏（4線区）の営業損益は前年度並み

- ▶ 営業収益は、ゴールデンウィークが10連休となった影響で運輸収入が増加したこと等により、238百万円増加。
- ▶ 営業費用は、電気関係の業務支援システムを置き換えたことや、平成30年11月17日に開業した苗穂駅新駅舎の不動産取得税を納付したこと等により、255百万円増加。
- ▶ 以上により、営業損失は17百万円拡大。

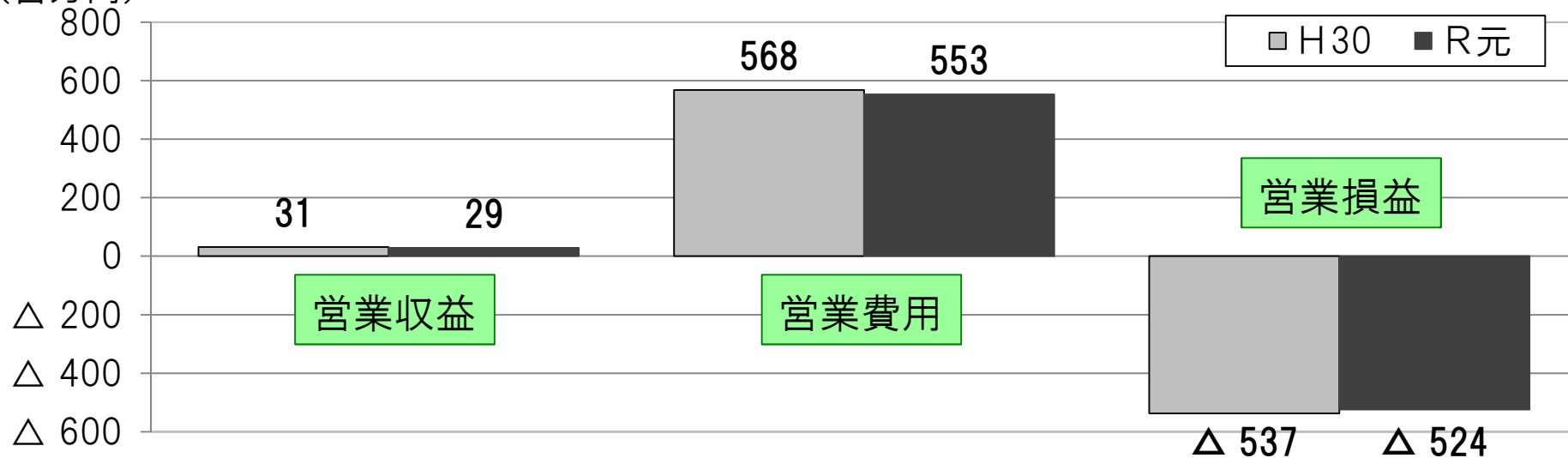


1 令和元年度第1四半期のポイント ④

○ [1～4] 赤・茶線区全体の営業損益が改善

- ▶ 営業収益は、[1] 札沼線（北海道医療大学～新十津川）の運輸収入が令和2年5月7日の鉄道事業廃止を前に増加した一方、[4] 日高線（鷗川～様似）の運輸収入が減少したこと等により、2百万円減少。
- ▶ 営業費用は、令和2年5月7日廃止予定の[1] 札沼線（北海道医療大学～新十津川）における財産を平成30年度末決算（平成31年3月）で減損処理し、減価償却費が減少したこと等により、14百万円減少。
- ▶ 以上により、営業損益は13百万円改善。

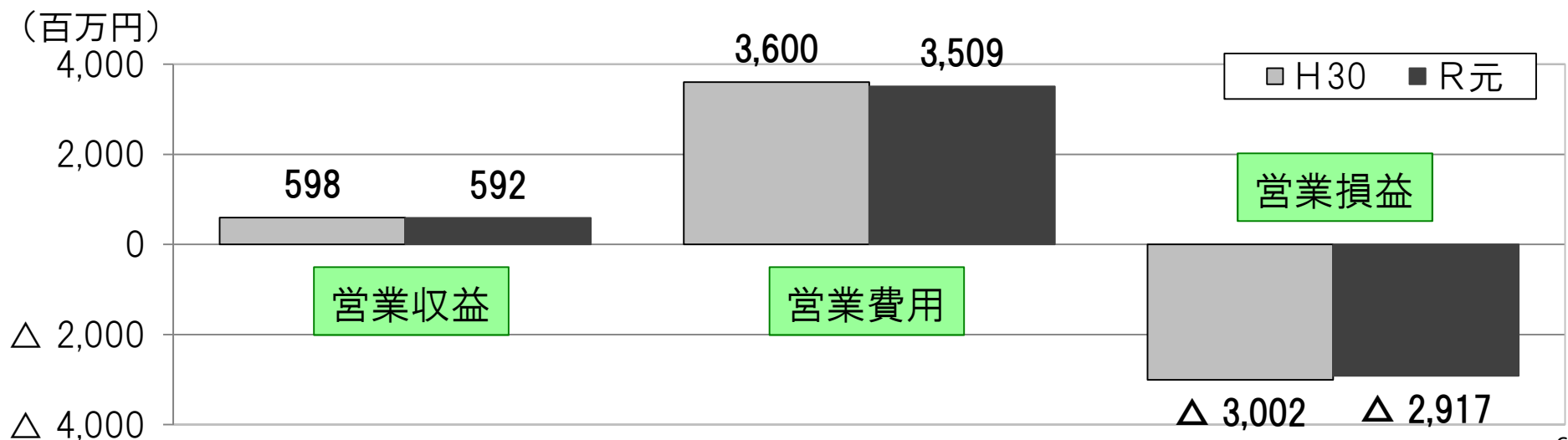
(百万円) ※平成30年度の値には、[24] 石勝線（新夕張～夕張）を含んでいません。



1 令和元年度第1四半期のポイント ⑤

○ [5～13] 黄線区全体の営業損益が改善

- ▶ 営業収益は、[6] 根室線（釧路～根室）と[9] 釧網線（東釧路～網走）、[10] 日高線（苫小牧～鷗川）においてご利用が増加した一方、[12] 石北線（上川～網走）をはじめとした複数の線区において運輸収入が減少したこと等により、5百万円減少。
- ▶ 営業費用は、[8] 室蘭線（沼ノ端～岩見沢）において橋梁の修繕が減少したことや、[11・12] 石北線（新旭川～上川、上川～網走）において平成30年度に特急列車を増結していたこと等により、91百万円減少。
- ▶ 以上により、営業損益は85百万円改善。



2 その他増減の大きい線区

○ [14] 石勝・根室線（南千歳～帯広）の営業損失が拡大

- ▶ 営業収益は、運輸収入が減少したこと等により、2百万円減少。
- ▶ 営業費用は、軌道整備（バラストのつき固め等）が増加したこと等により、126百万円増加。
- ▶ 以上により、営業損失は129百万円拡大。

○ [16] 室蘭線（室蘭～苫小牧）の営業損益が改善

- ▶ 営業収益は、ゴールデンウィークが10連休となった影響で運輸収入が増加したこと等により、15百万円増加。
- ▶ 営業費用は、電気設備の修繕（碍子や配電線の取り替え等）が減少したこと等により、43百万円減少。
- ▶ 以上により、営業損益は58百万円改善。

3 線区別の収支とご利用状況

別紙のとおり

令和元年度第1四半期 線区別の収支とご利用状況（対平成30年度第1四半期）

線名・区間			収支（百万円）									輸送密度 （人／日）		
			営業収益 （A）			営業費用 （B）			営業損益 （A）－（B）					
			H30年	R元年	増減	H30年	R元年	増減	H30年	R元年	増減			
1	札沼線	医療大学～新十津川	4	4	1	80	67	△12	△76	△63	13	63	64	1
2	根室線	富良野～新得	8	7	△1	167	163	△4	△159	△156	3	100	84	△16
3	留萌線	深川～留萌	9	9	△0	144	145	1	△135	△136	△1	151	146	△5
4	日高線	鶴川～様似	11	9	△1	177	178	1	△167	△169	△2	130	115	△15
1～4計			31	29	△2	568	553	△14	△537	△524	13			
5	宗谷線	名寄～稚内	97	93	△3	628	629	1	△532	△536	△4	327	312	△15
6	根室線	釧路～根室	39	40	1	291	309	18	△252	△269	△17	259	261	2
7	根室線	滝川～富良野	28	27	△2	252	260	8	△224	△234	△10	384	383	△1
8	室蘭線	沼ノ端～岩見沢	29	28	△1	351	284	△67	△322	△256	66	448	432	△16
9	釧網線	東釧路～網走	62	68	6	400	371	△29	△338	△303	34	327	342	15
10	日高線	苫小牧～鶴川	10	11	1	94	95	1	△84	△84	0	517	577	60
11	石北線	新旭川～上川	60	60	0	287	276	△10	△226	△216	10	1,019	1,014	△5
12	石北線	上川～網走	189	184	△5	1,005	975	△31	△816	△791	25	689	668	△21
13	富良野線	富良野～旭川	83	81	△2	292	310	18	△209	△229	△20	1,461	1,415	△46
5～13計			598	592	△5	3,600	3,509	△91	△3,002	△2,917	85			
1～13計			629	621	△7	4,168	4,063	△105	△3,539	△3,441	98			
14	石勝・根室線	南千歳～帯広	1,205	1,203	△2	2,003	2,129	126	△798	△926	△129	3,161	3,203	42
15	室蘭線	長万部～東室蘭	691	709	18	1,157	1,152	△5	△466	△443	23	4,702	4,817	115
16	室蘭線	室蘭～苫小牧	780	795	15	1,507	1,464	△43	△727	△668	58	6,643	6,705	62
17	函館線	岩見沢～旭川	1,208	1,215	7	1,902	1,893	△9	△694	△678	16	7,730	7,714	△16
18	札沼線	桑園～医療大学	9,971	10,209	238	10,036	10,291	255	△64	△82	△17	19,069	18,887	△182
	函館線	札幌～岩見沢										43,338	43,253	△85
	千歳・室蘭線	白石～苫小牧										45,589	47,161	1,572
	函館線	小樽～札幌										46,192	47,006	814
19	宗谷線	旭川～名寄	145	146	0	690	722	32	△545	△577	△32	1,348	1,351	3
20	根室線	帯広～釧路	369	366	△3	1,284	1,270	△14	△915	△904	11	1,427	1,444	17
21	新幹線	新青森～新函館北斗	2,344	2,503	158	4,297	4,479	181	△1,953	△1,976	△23	5,443	5,725	282
14～21計			16,714	17,146	431	22,876	23,400	524	△6,161	△6,254	△93			
22	函館線	長万部～小樽	90	93	3	513	476	△37	△423	△383	40	571	590	19
23	函館線	函館～長万部	1,067	1,086	20	2,569	2,616	47	△1,503	△1,530	△27	3,544	3,641	97
22～23計			1,156	1,179	23	3,082	3,092	10	△1,926	△1,913	13			
合計			18,502	18,946	444	30,158	30,555	396	△11,657	△11,608	48	5,036	5,163	127
24	石勝線	新夕張～夕張	3	—	△3	33	—	△33	△30	—	30	86	—	△86

- (注) 1. 輸送密度とは、旅客営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員をいいます（線区輸送人扣÷営業扣÷日数）。
2. 合計の輸送密度には、バス代行を継続的に実施している区間のある日高線（鶴川～様似）と根室線（富良野～新得）の実績を含まずに算出しています。
3. 平成30年度の合計の収支・輸送密度には、平成31年4月に鉄道事業を廃止した石勝線（新夕張～夕張）の実績を含んで算出しています。

令和元年度第1四半期 線区別の収支とご利用状況

線 名・区 間	営 業 キ ロ (km)	輸 送 密 度 (人/日)	収 支 (百万円)						営業係数(円)	
			営 業 収 益 (A)	営業費用			営業損益		管理費 除 く (B)/(A)	管理費 含 む (D)/(A)
				鉄道計 (B)	管理費 (C)	営 業 費 用 (D)=(B)+(C)	管理費 除 く (A)-(B)	管理費 含 む (A)-(D)		
1 札沼線 医療大学～新十津川	47.6	64	4	58	10	67	△ 53	△ 63	1,389	1,628
2 根室線 富良野～新得	81.7	84	7	116	48	163	△ 109	△ 156	1,697	2,394
3 留萌線 深川～留萌	50.1	146	9	122	23	145	△ 113	△ 136	1,412	1,675
4 日高線 鶴川～様似	116.0	115	9	57	121	178	△ 48	△ 169	617	1,919
1～4 計	295.4		29	352	201	553	△ 324	△ 524	1,220	1,916
5 宗谷線 名寄～稚内	183.2	312	93	536	94	629	△ 442	△ 536	574	674
6 根室線 釧路～根室	135.4	261	40	261	48	309	△ 221	△ 269	649	768
7 根室線 滝川～富良野	54.6	383	27	222	38	260	△ 195	△ 234	835	980
8 室蘭線 沼ノ端～岩見沢	67.0	432	28	245	39	284	△ 216	△ 256	866	1,005
9 釧網線 東釧路～網走	166.2	342	68	313	58	371	△ 245	△ 303	460	546
10 日高線 苫小牧～鶴川	30.5	577	11	85	10	95	△ 74	△ 84	768	854
11 石北線 新旭川～上川	44.9	1,014	60	237	39	276	△ 177	△ 216	393	459
12 石北線 上川～網走	189.1	668	184	831	143	975	△ 647	△ 791	452	530
13 富良野線 富良野～旭川	54.8	1,415	81	261	49	310	△ 180	△ 229	323	384
5～13 計	925.7		592	2,991	519	3,509	△ 2,398	△ 2,917	505	592
1～13 計	1,221.1		621	3,343	720	4,063	△ 2,722	△ 3,441	538	654

14 石勝・根室線 南千歳～帯広	176.2	3,203	1,203	1,838	291	2,129	△ 635	△ 926	153	177	
15 室蘭線 長万部～東室蘭	77.2	4,817	709	1,005	147	1,152	△ 296	△ 443	142	163	
16 室蘭線 室蘭～苫小牧	65.0	6,705	795	1,270	194	1,464	△ 475	△ 668	160	184	
17 函館線 岩見沢～旭川	96.2	7,714	1,215	1,618	274	1,893	△ 403	△ 678	133	156	
18 札沼線 函館線 千歳・室蘭線 函館線	札沼線 桑園～医療大学	28.9	10,209	8,826	1,466	10,291	1,384	△ 82	86	101	
	函館線 札幌～岩見沢	40.6									43,253
	千歳・室蘭線 白石～苫小牧	68.0									47,161
	函館線 小樽～札幌	33.8									47,006
19 宗谷線 旭川～名寄	76.2	1,351	146	611	111	722	△ 466	△ 577	420	496	
20 根室線 帯広～釧路	128.3	1,444	366	1,086	184	1,270	△ 720	△ 904	297	347	
21 新幹線 新青森～新函館北斗	148.8	5,725	2,503	3,738	740	4,479	△ 1,236	△ 1,976	149	179	
14～21 計	939.2		17,146	19,993	3,407	23,400	△ 2,847	△ 6,254	117	136	

22 函館線 長万部～小樽	140.2	590	93	406	70	476	△ 313	△ 383	438	514
23 函館線 函館～長万部	147.6	3,641	1,086	2,256	360	2,616	△ 1,169	△ 1,530	208	241
22～23 計	287.8		1,179	2,662	430	3,092	△ 1,483	△ 1,913	226	262

合 計	2,448.1	5,163	18,946	25,998	4,557	30,555	△ 7,052	△ 11,608	137	161
-----	---------	-------	--------	--------	-------	--------	---------	----------	-----	-----

※ 合計には、出向社員給与などを含まないため、鉄道事業計とは一致しません。

鉄 道 事 業 計	2,448.1	—	19,795	—	—	31,694	—	△ 11,899	—	—
-----------	---------	---	--------	---	---	--------	---	----------	---	---

(注) 1. 管理費とは、本社・支社の鉄道事業部門や、総務・経理などの一般管理部門の従業員に係る、人件費や物件費などのことです。
2. 営業係数とは、100円の営業収益を得るために必要な営業費用の指数をいいます。